



学校だより



6月号

令和5年(2023年)

5月31日(水)

横浜市立洋光台第二小学校

こうへい 衡平であり続けるために

学校長 のむら 野村 ひかる 光

5月26日金曜日に、よこは子ども国際平和スピーチコンテストの校内選考会が体育館で行われました。このコンテストは、今年で27回を数え、毎年、市内の4万人余の小中学生が参加するコンテストです。校内選考では、6年生の各クラスから選ばれた6名が、持続可能な社会の実現を目指すために、子どもたちならではの様々な視点から、国際平和に対する熱い思いを弁説しました。

その中から、6年2組の玉置 結椀さんの「ジェンダー平等への第一歩」というジェンダー課題をテーマにしたスピーチが学校代表に選ばれました。玉置さんは身近なところから自分にできることを実践していく、と力説してくれました。

私が小学生の頃は、学校で使うプールバッグは2色だけで、女子は赤、男子は青と暗黙のルールで決まっていました。今考えると、随分と固定観念に縛られたおかしな話ですが、誰も何も言わなかったと思います。もし、男の私が鮮やかな赤いバッグを選んでいたら…どんなことになっていたのでしょうか？

私は左利きです。十人に一人いるという左利きですが、当時は、習字の筆は必ず右手で持つように言われました。上手く書けるはずがない書写の時間が、私はとても憂鬱でした。体育の時間は、左に嵌めるグローブしかなく、仕方なく右手でソフトボールを投げていました。左利きに対する理解は進み、今では「左利きを右利きに直すこと」はなくなりました。ユニバーサルデザインが言われ始めて久しくなりますが、それでもまだ駅の改札は右側にあるので、体をひねりながらカードをタッチします。パソコンのマウスも右クリックといわれたときは逆に置き換えて対応します。人とカウンター席に座るときは箸を持つ手がぶつからないように、必ず端の席を選びます。おたま等一部の食器の形も、右手仕様になっているので右手に持ち替えるか、使いにくいまま左手で使うことになります。

「衡平」という言葉があります。「違いを前提として、その違いに応じた異なる対応を行うことで、みんながそれぞれの権利を平等に得られるようにすること」です。衡平は、世界がより発展し、平和で公正な場所になるために大事な考え方です。

自分がある事柄において多数派に所属しているとき、少数派の人たちが抱える悩みや、困り感に気づかないことがあるのではないのでしょうか。例え理解することには時間がかかったとしても、その存在と思いや願いに気づくことはできるはずです。

◀ 第1回 洋光台第二中学ブロック 学校運営協議会 ▶

5月27日土曜日に、「令和5年度 第1回洋光台第二中学ブロック 学校運営協議会」が洋二中で開催されました。地域住民、学識経験者等18名の委員が参加するこの会では、洋二小・洋四小・洋二中それぞれの校長が示す中期学校経営計画が承認されました。参加していただいた委員の皆様、ありがとうございました。年間3回開催されるこの会は、11月21日に第2回目の会議が洋二小で行われる予定です。